

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01981

研究課題名（和文）東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会

研究課題名（英文）The Implementation of the CRPD and Civil Society in East Asia

研究代表者

長瀬 修（Nagase, Osamu）

立命館大学・衣笠総合研究機構・上席研究員

研究者番号：60345139

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：筆頭編者として『障害者権利条約の実施：批准後の課題』（信山社、2018）、『わかりやすい障害者権利条約』（伏流社、2019）、『障害者権利条約の初回対日審査』の3冊を上梓した他、東アジアにおける障害者の権利条約と障害者組織をはじめとする論文を国内外で多数、発表することができた。講演は東アジアに加え、欧州、南米、東南アジアで対面実施した他、オンラインでも行った。障害者権利条約に関して2022年8月の台北での建設的対話、韓国、日本（初回）、中国との建設的対話すべてに立ち会うことができ、その経験を、建設的対話を含む審査過程の結果、作成・公表された総括所見の分析に活かすことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

障害者権利条約の実施を通じた障害者の人権確保という課題を東アジアは共有している。残念ながら韓国、北朝鮮、中国（香港、マカオ）、台湾を含む東アジア地域は政治的・軍事的緊張に満ちている。だからこそ、障害学国際セミナーや様々な交流を通じて、東アジアにおける障害者の人権確保という共通の課題に取り組む意義は大きい。そして、宗教的、歴史的に多くの共通点を持つ東アジアの経験を、日本における障害者の人権確保に活かす意義も大きい。本研究も、その壮大な取り組みへのささやかな貢献をなす。

研究成果の概要（英文）：In relation to the research theme, I co-edited three books, including ‘Implementation of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities: Post-Ratification Issues’ (Shinzansha, 2018), ‘An Easy-to-Understand Convention on the Rights of Persons with Disabilities’ (Furyusha, 2019), and ‘Initial Examination of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities for Japan’ (Horitsubunkasha, 2024). Additionally, I have authored many articles on the research topic both in Japan and abroad. Besides East Asia, I have delivered lectures face-to-face in the UK, Paraguay, Laos PDR, and Lithuania, as well as online. The knowledge gained from observing the Constructive Dialogue between (a) the Committee on the Rights of Persons with Disabilities and China, South Korea, and Japan, all in Geneva, and (b) the International Review Committee (which I served as the chair) and the Republic of China in Taiwan, has been instrumental in analyzing the recommendations for each State Party.

研究分野：障害学

キーワード：障害者 人権 差別 東アジア 市民社会 障害者組織 障害学

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究期間中に東アジア地域では、研究対象すべての国・地域の審査(建設的対話と総括所見を含む)が予定されていた。日本については初回審査が予定され、社会的関心は高まっていた。2回目の審査では初回審査で出された勧告である総括所見の実施状況に焦点が当たることが想定されていた。当時、審査を受けた中国、香港、マカオ、韓国、モンゴル、すべての東アジアの国・地域に対する総括所見には、障害者組織のいっそうの参加・関与を求める勧告が含まれていた。本研究を2018年度から各国・地域の障害学研究者や実践家と協力して遂行する過程で、研究成果を適宜、パラレルレポートの作成や、建設的対話を含む審査に活かすことを目指し、それは実現した。2020年の日本の建設的対話と総括所見にもその時点までに得られた知見を活用することが想定されていた。新型コロナウイルス感染症の影響で、2022年に延期された日本の建設的対話と総括所見にも本研究の成果を活用したいという思いがあった。

### 2. 研究の目的

「障害者権利条約の実施・審査過程において市民社会、とりわけ障害者・障害者組織の参加が東アジア各国・地域においてどのように行われているか」という問いに、各国・地域の障害者を含む市民社会の視点から答えることである。

### 3. 研究の方法

- (1)文献研究(障害学、東アジア地域研究、国際人権法学、市民社会論の文献の他、障害者権利委員会による総括所見や一般的意見の分析)
- (2)研究会の開催(障害者権利委員会の審査動向や各分野、各国・地域をテーマとする)
- (3)研究パートナーとの共同分析(研究対象の各国・地域の研究者、市民社会と共同で、各国・地域での障害者組織と市民社会のCRPD実施過程への参加過程の分析を行う)
- (4)障害者権利委員会傍聴(審査の最新動向を把握すると共に、障害者権利委員会<ジュネーブ:年2回>での東アジア各国・地域の審査における障害者組織と市民社会の参加を観察する)
- (5)研究成果の論文・書籍での刊行(英文と和文)

### 4. 研究成果

以下、時系列で振り返る。

初年度の2018年度の第1の成果として、日本における障害者権利条約の実施状況と課題を明らかにする『障害者権利条約の実施と日本 批准後の日本の課題』を2018年12月22日に川島聡(岡山理科大学)と共編著で信山社より刊行した。障害者権利委員会委員である石川准(静岡県立大学)を含む、全部で23名の各分野の専門家が参画した。研究代表者自身は「障害者権利委員会 報告制度」を担当した。

東アジアの日本、韓国、中国、台湾の障害学研究者が集う、障害学国際セミナー2018には、共同議長として参画した。遊ぶ権利をテーマとして2018年10月に国立台湾大学にて開催された同セミナーにおいて、「障害者権利条約第30条、贅沢か、生きる意味か」と題する報告を行った。これ以外でも、イギリス、韓国、台湾、中国における国際学会・研究集会でも報告を行った。また、研究成果を地元の市民社会、障害者組織と具体的に共有する障害者権利条約パラレルレポートワークショップをパラグアイ、ラオス、香港、シンガポール、そしてアセアン障害フォーラム(シンガポールにて)対象でそれぞれ実施した。

2018年12月22日に東京大学で開催した公開講座「障害者権利条約の実施 批准後の日本の課題」(研究代表者・松井彰彦「多様性の経済学」が主催し、本科研は共催)では、自ら報告した他、障害者権利委員会の石川准委員(静岡県立大学)を招聘した。

所属する立命館大学生存学研究センター主催の連続セミナー「障害/社会」第11回(2018年5月18日、京都キャンパスプラザ:本科研は共催)にて、「障害者権利条約の報告と審査 台湾(中華民国)政府審査とその経験」と題する報告を行った。

2019年度は、知的障害者と共同作業で作成した『わかりやすい障害者権利条約』を2019年9月に編者として刊行した。アクセシビリティ(障害者権利条約第9条)の一環として、国際的に推進されている、知的障害者を念頭にした、わかりやすい表現による情報提供の一環である。また、個人の不可侵性に関する障害者権利条約第17条と深く関係する、旧優生保護法による強制的不妊手術の被害者の声を記述した一章を、英国、カナダ、ジンバブエの編者による“The Routledge Handbook of Disability Activism”に寄せた。

2019年10月に中国武漢にて開催された東アジアの韓国、中国、台湾、日本を対象とする障害学国際セミナー2019では引き続き共同議長を務め、重鎮であるTang Jun(中国社会科学院社会政策研究センター研究員)の基調講演を受けて、指定発言者を務めた。それ以外でも、リトアニア(ピリニウス)、中国(北京等)の国際会議で障害者権利条約に関する講演を行った。

公開講座「障害者差別解消法の見直しの課題ー障害平等研修と障害の社会モデル」を科研費基

盤(A)「多様性の経済学」(研究代表者:松井彰彦)主催、本研究が共催で2019年11月30日に東京大学にて開催した。また、「障害者の地域での自立生活と障害者権利条約」に関する講演会を国連障害者権利委員会副委員長のJonas Ruskus(リトアニアのヴィータウタス・マグヌス大学教授)を講師として、立命館大学生存学研究所主催、本研究が共催で2020年1月27日に立命館大学にて開催した。同じく障害者権利委員会副委員長である石川准(静岡県立大学教授)には、障害者権利委員会第22会期について2019年9月に静岡県立大学にて聞き取りを行った。

新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)の影響を受けた2020年度は、障害者権利条約の実施とコロナの影響を主テーマとして研究を推進した1年となった。次の3オンラインセミナーを開催した。

(1)オンラインセミナー「新型コロナウイルス感染症と生存学」(2020年5月8日)。初の緊急事態宣言下において、情報アクセシビリティ(手話と文字)を確保した先進的な取り組みを実施した。

(2)障害学国際セミナー2020 オンラインセミナー:東アジアにおける新型コロナウイルス感染症と障害者(2020年7月18日)。東アジアの日本、韓国、中国、台湾の障害学研究グループが毎年集う障害学国際セミナーは、本来、2020年9月に京都で開催予定だったが、コロナの影響によってオンラインで開催された。英語で開催した本セミナーは、日本の傍聴者向けに日本語の同時通訳と手話・文字通訳を提供することができた。そして、コロナ禍以前から存在していた課題が、コロナという新たな現象と結びついた時に深刻化している。具体的には、情報面・物理面(医療機関を含む)のバリアや施設・病院への収容、地域生活資源の不足、政策決定過程への参画の壁、障害者の生命の価値を低くみる考え方などである。同時にオンラインでのアクセシビリティを確保する契機ともなりうるものが明らかにされた。

(3)障害学国際セミナーオンライン特別セミナー「新型コロナウイルス感染症と東アジアの障害者」(2021年2月27日)。障害学国際セミナー本来の形態である日本語、韓国語、中国語の3言語間のオンラインでの同時通訳による開催を実現し、前回同様、日本の傍聴者向けの手話、文字通訳の提供に成功した。基調講演は国連障害者の権利に関する特別報告者であるジェラルド・クインが行い、「新型コロナウイルス感染症と医療への平等なアクセス」と、「新型コロナウイルス感染症と生活水準・社会保障」に関するパネルを開催した。

引き続き、コロナ禍の2021年度に障害者権利条約の国際的モニタリングを行う障害者権利委員会は、コロナ禍をはじめとする緊急事態下を含む、障害者の脱施設化を重要な課題として取り上げ、当該研究期間中にアジア太平洋各地域でのオンライン協議をふまえ、脱施設化のガイドラインのアウトラインを公表した。脱施設化は障害者権利条約の第18条の重要な課題であり、本研究として取り組みを進めた。その一環として障害者の地域での自立生活をテーマとして2022年2月26日、27日に東アジアを対象とする障害学国際セミナー2022(ZOOM)を開催した。自立生活運動、家族、リプロダクティブリティとセクシュアリティ、精神障害者をテーマとする4つのセッションを設け、参加の日韓中台それぞれからの報告を得た。主催は研究代表者が所属する立命館大学生存学研究所であり、本研究以外の他の共催団体は、韓国障害学会、台湾障害学会、東湖社会発展研究所(中国のNPO)、障害学会(日本:研究代表者は理事として新設された国際委員会の初代委員長に2021年に就任)である。日本語、韓国語、中国語の同時通訳の他、手話・文字通訳も提供した。同セミナーの共同議長である研究代表者は全体のオーガナイザーの他、両日の総司会も務めた。

引き続き国際的な報告にも積極的に取り組んだ。4月には犯罪、犯罪化、不正義に関する国際ワークショップ(英国)、8月には障害者組織を対象とする障害者権利条約のパラレルレポートに関するワークショップ(韓国)、12月には、障害法と政策ワークショップ(中国)、3月にはフランスの国立社会科学高等研究院主催(障害学会と生存学研究所が共催)の日仏障害研究セミナーにおいて本研究の成果の一端を国際的に共有した。すべてオンラインである。

コロナの影響で延期となっている障害者権利条約の日本審査に関連する研究も引き続き取り組んだ。ようやく2022年8月から9月に実施予定となった。

2022年度は、コロナの影響も収まり、本研究にとっても大きな節目となった。障害者権利条約の国際的監視機関である障害者権利委員会と日本との初めての建設的対話が同委員会第27会期中の2022年8月にスイスのジュネーブ国連事務所で実施され、9月に勧告である総括所見が採択、公表された。また同会期中に中国(香港を含む)と韓国の2回目の審査も実施された。研究代表者は、ジュネーブですべての審査を観察した。さらに国連システム外の独自の中華民国(台湾)の障害者権利条約第2回目の独自の審査が8月上旬に台北で実施され、第1回の審査(2017年)と同様、研究代表者は審査委員長を務めた。

日本国内で社会的に非常に多くの反響を呼んだ日本の初回審査について障害法学会研究大会にて早速、研究報告を実施した。日本の初回審査と総括所見に関する複数の原稿も寄稿した。さらに2023年中の刊行に向けて専門書(法律文化社)の準備を编者として進めた。共编者は川島聡放送大学教授と石川准静岡県立大学名誉教授(障害学会会長、元国連障害者権利委員会副委員長)である。情報・物理的アクセシビリティ、精神医療、地域生活、インクルーシブ教育、ジェンダー・セクシュアリティ、雇用、生命の権利など各分野の専門家による分析と執筆を進めた。

国際的には、米国の障害学会(SDS)大会の基調講演として、東アジアにおける障害学の展開について報告を行ったほか、日本のダイバーシティとインクルージョンに関する英文書籍において、合理的配慮について分析を行った。国際的な障害学研究誌(International Journal on

Disability and Social Justice)において、書評編集長(香港)の依頼により、パラリンピックを含む日本の障害者スポーツの発展を分析した書籍の書評を行った。

コロナ禍の影響で1年の延長を余儀なくされた最終年度、2023年度も引き続き、東アジア(韓国、中国、台湾、日本)における障害者権利条約の実施と障害者組織をはじめとする市民社会の役割について研究を深めた。2024年1月には、日本の初回審査に関する包括的な著作である『障害者権利条約の初回対日審査：総括所見の分析』(法律文化社)を編者として刊行した。また、2024年3月に刊行された『障害学の展開：理論・経験・政治』(障害学会20周年記念事業実行委員会、明石書店)においては東アジアにおいても大きな影響を持つ国際的障害者運動に関する章を担当した。また、2023年10月に韓国ソウルにて開催された障害学国際セミナーにおいては、政策をテーマとするセッションにおいて座長を務めた。

補助期間全体を振り返ると、上記のように数多くの成果を上げることができた。具体的には、編者として『障害者権利条約の実施：批准後の課題』(信山社、2018)、『わかりやすい障害者権利条約』(伏流社、2019)前述の『障害者権利条約の初回対日審査』(法律文化社、2023)の3冊を上梓した他、東アジアにおける障害者の権利条約と障害者組織をはじめとする論文を国内外で多数、発表した。講演は、韓国、英国、パラグアイ、ラオス、中国、リトアニア、台湾で対面で実施した他、オンラインでは、米国の障害学会の大会、フランス国立社会科学高等研究院の日仏障害研究フォーラムで報告を行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 173
2. 論文標題 障害者権利条約の審査過程と建設的対話	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 66 - 73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 172
2. 論文標題 中国と二つの拍手	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 112 - 113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 61号
2. 論文標題 日本の初回審査とパラレルレポート	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新ノーマライゼーション	6. 最初と最後の頁 2 - 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 171号
2. 論文標題 「ジュディス・ヒューマン自伝『わたしが人間であるために』に寄せて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 112 - 113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 167号
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症と障害者の権利	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 106 - 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 168号
2. 論文標題 東アジアにおける新型コロナウイルス感染症と障害者 - 障害学国際セミナー2020	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 169号
2. 論文標題 高齢と障害の交差性 コロナ、エイジズム、高齢者の権利条約	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 70 - 71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 170号
2. 論文標題 障害者権利条約締結国会議と障害者権利委員会の動向 - 新型コロナウイルス感染症の影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 82 - 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 164
2. 論文標題 続・殺害された<国際障害者年の父> - マンスール・ラシッド・キヒア：残された家族と帰還	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 86-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 165
2. 論文標題 障害者権利条約の日本への事前質問項目 - 国際的な人権の取り組みの役割」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 90-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 166
2. 論文標題 障害学国際セミナー2019 - 「全員のためのインクルーシブな社会」(武漢)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 104-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 13
2. 論文標題 合理的配慮 - 起源、展開、射程	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 障害学研究	6. 最初と最後の頁 96-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 159
2. 論文標題 障害者権利条約中華民国（台湾）初回報告総括所見（中）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 154-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 160
2. 論文標題 障害者権利条約中華民国（台湾）初回報告総括所見（下）」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 147-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 161
2. 論文標題 障害学国際セミナー2018 - 台湾で「遊び」を論じる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 112-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 10
2. 論文標題 Sagamihara Attack and Challenges of Community-Living	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ars Vivendi Journal	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 長瀬修	4. 巻 162
2. 論文標題 障害者権利条約日本初回審査（2020年） - パラレルレポートとロビーイング	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 88-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 21件 / うち国際学会 18件）

1. 発表者名 Nagase Osamu
2. 発表標題 East Asian Experiences and JSDS
3. 学会等名 Society for Disability Studies（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 障害者権利条約の実施：初回日本審査と総括所見
3. 学会等名 障害法学会大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Sagamihara Stabbings: Ableism, Community Living and Death
3. 学会等名 International Workshop on Crime, Criminalization and Injustice（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 CRPD and the Republic of Korea
3. 学会等名 UNCRPD Parallel Report Workshop Toward 2022 for Persons with Disabilities Organizations in Republic of Korea (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 国連の障害者権利委員会脱施設化ワーキンググループの取り組みについて
3. 学会等名 第10回DPI障害者政策討論集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 障害者と人権：障害者差別解消法と合理的配慮
3. 学会等名 公益財団法人人権教育啓発推進センター令和3年度会員共催事業「障害者と人権」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Sagamihara Stabbings, Community-Living, CRPD
3. 学会等名 Disability Law and Policy Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 障害者権利条約を通じた日本の障害者政策の転換の課題：社会権から自由権へ
3. 学会等名 日仏障害研究フォーラム（フランス国立社会科学高等研究院主催）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Ableism and Ageism during the COVID-19 pandemic
3. 学会等名 Webinar on The Rights Protection of Vulnerable Groups in the Pandemic（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 障害者権利条約と日本：課題と政治力学
3. 学会等名 日本弁護士連合会自由権規約個人通報制度実現委員会研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 The UNCRPD and Incorporating Intersectionality in Disability Rights Scholarship and Policy Advocacy
3. 学会等名 Workshop on the Equal Participation and Inclusive Society of Persons with Disabilities（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症と障害者権利条約
3. 学会等名 第9回DPI障害者政策討論集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Advocacy and facilitation of the implementation of the rights of persons with disabilities and CRPD during the COVID-19 pandemic
3. 学会等名 Human Rights-Based Approaches to Development Workshop（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 障害者権利条約初回審査と労働及び雇用（第27条）－日本障害フォーラムの平行レポート
3. 学会等名 国際シンポジウム「障害者権利条約と労働・雇用をめぐる日本、アジア、世界の状況（招待講演）（国際学会）」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Self-Advocacy and implementation of the CRPD in Japan
3. 学会等名 Europe in Action 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Japan's experience: Advocacy role of persons with disabilities and the civil society regarding CRPD through the case of Japan Disability Forum
3. 学会等名 The Third ASEM High-level Meeting on Disability Cooperation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 International Cooperation to Implement the CRPD and organizations of persons with disabilities
3. 学会等名 2019 Think Tank Forum on Disability Issues under the Belt and Road Framework (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Inclusion in Society from the CRPD Perspective
3. 学会等名 East Asia Disability Studies Forum 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Disability, Diversity, Inclusion - Convention on the Rights of Persons with Disabilities
3. 学会等名 17th Asia Pacific Conference, Center for Inclusive Leadership Special Session、立命館アジア太平洋大学 (APU) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Accessibility, SDGs, and Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD)
3. 学会等名 Shenzhen 's Accessible City Construction and Sustainable Development Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 障害と多文化主義
3. 学会等名 多文化時代の相互文化主義観点 - 体系と生活世界 - (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 相模原事件と障害者の地域生活
3. 学会等名 国際育成会連盟世界会議「ヘイトから守る」分科会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 "Life before and after the CRPD in Japan and Asia" (「日本とアジアにおける、障害者権利条約以前と以後」)
3. 学会等名 アジアにおける障害、性的志向・性自認表現、平等会議 (Conference on Disability, SOGIE and Equality in Asia)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 障害者権利条約第30条、贅沢か、生きる意味か 国際的人権における文化的な生活、レクリエーション、余暇及びスポーツへの権利の展開 (Article 30 of the CRPD, a luxury or meaning of life?- Developments of right to cultural life, recreation, leisure and sport in international human rights instruments)
3. 学会等名 障害学国際セミナー2018 (East Asia Disability Studies Forum 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 “ The Impacts of CRPD and Diversified Residence in Different Countries: Sagamihara Killing and Challenges of Community-Living- the case of Japan ”
3. 学会等名 International Seminar on Multi-Community Living for People with Disabilities in 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 Disability Policy and Civil Society/DPOs in Japan through the CRPD Process: Japan Disability Forum and Policy Commission
3. 学会等名 Conference on Multi-Disciplinary Research of Disability Policy in China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長瀬修
2. 発表標題 障害者権利委員会 報告制度
3. 学会等名 多様性の経済学 (REDDY) 公開講座、障害者権利条約の実施 批准後の日本の課題
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 長瀬 修, 川島 聡, 石川 准, 杉山 有沙, 飯野 由里子, 関哉 直人, 大胡田 誠, 堀田 義太郎, 新井 誠, 桐原 尚之, 鈴木 良, 今川 奈緒, 中川 純	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 262
3. 書名 障害者権利条約の初回対日審査: 総括所見の分析 ( 21世紀 国際法の課題)	

1. 著者名 障害学会20周年記念事業実行委員会(編) 長瀬修他著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 障害学会	5. 総ページ数 496
3. 書名 障害学の展開	

1. 著者名 Nagase Osamu, Lailani L. Alcantara, Thi Huong Tang, Kuniomi Shibata, Yuko Takahashi, Toshitsugu Otake, Mie Morikawa, Yoshiki Shinohara, Yoshimi Matsuzaki, Yukiko Ito, Haruaki Deguchi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 242
3. 書名 Diversity and Inclusion in Japan: Issues in Business and Higher Education	

1. 著者名 長瀬修	4. 発行年 2021年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 240
3. 書名 アジアの障害者の法的能力と成年後見制度	

1. 著者名 長瀬修編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 伏流社	5. 総ページ数 111
3. 書名 わかりやすい障害者権利条約	

1. 著者名 長瀬修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 200
3. 書名 国連障害者権利委員会の動きと市民社会の役割日本発達障害者連盟編（『発達障害白書2020年版』）	

1. 著者名 長瀬修	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 482
3. 書名 "Voices from survivors of forced sterilisations in Japan", Berghs, M. et al, eds, The Routledge Handbook of Disability Activism	

1. 著者名 長瀬修	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 96
3. 書名 障害学国際セミナー2016 - ドア、太陽の塔、コナン（知と実践のプリコラージュ：生存をめぐる研究の現場）	

1. 著者名 久野研二編著（長瀬修）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 現代書館	5. 総ページ数 185
3. 書名 社会の障害をみつげよう	

1. 著者名 長瀬修 川島聡	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 532
3. 書名 障害者権利条約の実施 批准後の日本の課題	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 障害学国際セミナー2022	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Second CRPD Review Paraguay Workshop	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Workshop for the CRPD Initial Review for Lao PDR- for 2020	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Workshop on Disability Rights and Equality 2018:2nd CRPD Review and Hong Kong	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 CRPD Parallel Report Workshop (Disabled People's Association)	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 CRPD Parallel Report Workshop (ASEAN Disability Forum)	開催年 2018年～2018年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------